夕刊
磐城新聞
五月十二日發行
發行所 磐城新聞
（日曜祭日翌日休刊）

途上漫筆（三）

……回之字會……　小野生

去る七日、東京士官學校生徒二個中隊は湯本、小名濱、泉、磐崎の二町二ヶ村に分れて駐屯なし測圖演習を擧行中であるが、其の中隊中には、朝香宮孚彦王殿下、又御一行に御加はり、一軍人として毎日御勤務遊されつゝあるを拜し一般の敬意を拂ひつゝあるのであるが、實に殿下の御宿舍として、寛き給ひしは、小名濱町小野しげ子宅であつて小名濱町は來十三日は、鎭守例祭の當日なるに相當せしを機會とさし給へ。士官學校生徒の御資格を以て當日鎭守諏戸神社に參拜の旨仰せ出なされたりしと承り小名濱町民は、此上もなき喜びを以て鈴木町長初め各官衙、町會議員並に外有志擧つて、參拜の上殿下に敬意を表する筈なりと承り、殿下の如何に敬神の御心に厚きかを拜察するに餘りある事と存ずる次第である。

×

世間幾多の强健術てふものを或は口にし或は著書にして、公けにせるもの尠くはないが、行ふに複雜で比較的時間を要するものが其の大部分を占めて居る、これ初めの信者多くして後に門前雀羅を張るの例にして折角の著書も徒箋に葬られつゝあるを遺憾とするものである。

然るに今般當地三千雄氏の發明考案に成る、全身强健術に至りては從來の殼を脫して、時間的には僅かに五六分にして身体全体の運動となり、その動作簡單なるが故に之れを學ぶもの亦容易にして、比較上萬病を治するに効果充分なりとの習得者の經驗によつて明々たるに至りては聊か推賞を禁じ難きものがある。

今日体育を表看板として運動熱、勃興し來たり、果ては一の職業氣分と化し來たるに至つては、識者の憂慎措かざる所なるに今草野氏の發案に依るものは此等体育主義を賣りものにしたる徒輩をして、瞠若たらしめ、以て誤てる体育方針を根本より崩壞せしむるの資たるべき力ある事を表するものであると推賞措かざる次第である。

秋（童謠詩）

原田 小太郎

リンゴの
香りの
秋
しづかな
なぎさの
秋
あゝ
運動會も
くるよ。

◇沼と鹿と◇

宮本 正名

鹿は秋の朝
朝の沼邊で
うまぜりの實を
しやぶ〳〵と食べた
秋の沼水は冷たい
しやぶ〳〵と
鹿がはいれば
ひざまでの影が出來てゐ
白い鹿の子が
紅葉した葉の
向からみえてた
何んの木だらう。

時代警語

○賣物には花を飾れ……………（俚諺）

弊衣破帽を以て豪傑の風采と誇りしは過後時代の剏産物のみ、今後世に立たんとするものは虛飾に流れざる程度に於て風貌を整へる事は立身の門入り成功の鍵を握るの通俗なる意味に於ける秘訣である……………

5月13日

△白河樂翁薨ず（文政一二）△副島種臣を露國に遣はして樺太彊界を議せしむ（明治四）△新潟縣白根町大火五百戸燒失△秋田市にも大火あり三百戸燒く△不平等條約廢棄宣言ヶ那國民會議本會議で可決△蔣介石氏胡漢民氏を再び監禁す△佛國大統領選擧ヅーメル氏再選△湯本上水道起債大藏省關係通過の內報入る（昭和六）

社會の今日

○

五月空眼路の限りは若葉してアンテナ柱のをちこちに光る　西村 昌洋

三熊野や鶯老いて苔の花　耕村

講談 お蘭陀お蝶 (27)

渡邊默禪作　布施長春畵

かくて元船のカピタン小舟に乘つて出島に陽れば紅毛屋敷、前年のカピタン從者其外遊女など附添ひ、是を迎へ入れて宴を催すなり（下略）

是で見ても此の華々しい入舟が如何に長崎市民の血を湧かし肉を蕩かしたか今よりも想像が出來るのであらう。

五郎卆の姉、お玉は何と思つたか身裝束も匆々に家を飛出した、さうして思案橋から出入の船頭に一艘の端艇を出させ、それに乘つて直ぐに出島の方へ！

長崎奉行の曾我又右衛門は此日の朝、蘭船が五島沖に見えたと云ふ報告を聞いて急ぎ長七郎殿に使者を出し御見物の思召しあらば御案內申そうと言入れた、長七郎殿は虎屋に居つゞけ黄金の雨の陀々羅遊び、廓にあらゆる美人をあつめて長夜の宴を張つてをられたが目指す敵の薄雲が靡きそうもないので飲む酒も水、見る程の女は木偶、兎角に興の醒め易く、稍々ぢれ氣味になつてゐた矢先である。近習二人はそれこそ何よりの馳走、是非拜見いたしたいと答へて餘り氣乘りせぬ主人を強いて引張り出したといふのも心機を一轉させて早く此の地を出發させる肚なので。

曾我は時刻を見計ひ江戶町の波止場に御座船をしつらひて待つてゐた。船は福田丸と名付くる立派な屋形船幡、幟吹き流し提灯などでこちたく飾り立てた心をつくした割籠酒肴から眉目のよい女腐の酌人に至る迄凡てが遺憾なく用意された萬一のことがあつてはと福田丸の右邊りに三艘の番船を着け、二十餘人の町同心を分乘させ與力の銀之丞がそれを指揮し、嚴なる警戒の下に波止場をはなれて身投ケ崎の邊りまで漕ぎ出した頃は恰も二艘の黑船が長蛇の如き和船に曳かれて洋城の堂々たる勇姿を灣內に顯はした時であつた、凡そ船といふ船にある人は長七郎どのといわず、奉行といわず、水主も揖取りも一齊に頭を擡げてあッとばかりに仰ぎ見るいかに目覺しげなる大鵬の影なるよ、波を破る一千里餘威猶翼にあり躍つて大地を呑まんとするかとの感嘆は心から心へと響いた。

『モシ、お願ひの者でございます、もし』

福田丸を目がけて眞一文字に潜ぎつけた一艘の端艇から優しい女の呼聲が聞えた、それがお玉である。ドン……ドン……戸町の番所から打つて發つ祝砲は沖から山へ山から空へ凄まじく反響する。

『モシに役人へのう』

再び呼びかけたが總てが黑船に氣を奪られてゐるさなか振り返つて見る者すらない。

『まあ阿房らしい皆さんの夢中になる居る樣子わいの』お玉はぢれつたいといつた風に体をわく〳〵させながらせん頭を急き立てゝ前へ乘り越させ第二の番せんの横つ腹へドンと舳を突き當てた。

『や、無禮者！』

ぐら〳〵と揺れる舟の横木に掴まつて危く倒れかゝる身を支えた與力の銀之丞が怖い顔をして佶と睨みつけた。

『モシお役人さま、お願ひの者におざります』

際さずお玉は呼んだ、さしかけた日傘をたゝんで

『な、何事ぢや』

怪しと見る眼は異樣に光る。

『はい私しや、其の船にお召しておざる松平長七郎樣に、ちよつとお目もぢしたいのでござんす、逢はせて下さんせ、急ぎの用ぢや程に早うなのう』

お玉は舷に取着いて福田丸の櫓を見上げた

『何と申す！殿樣にお目通りを……さてさて奇怪なことを……其方何れの者ぢや！』。

ラヂオ

……十三日（金曜）……
仙臺 JOHK

△前六、三〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理獻立（芝麻園）東北女子職業學校 日用品値段（肉るい）
△一〇、三〇B 家庭講座（乳幼兒の性癖發展と其矯正法）黒川浪胤
△正午A 時報
△〇、〇五A 俚謠（本場佐渡おけさ）長谷川玉子外
△後〇、四〇A ニュース 氣象
△一、一〇 六、〇〇A 運動競技…豫備日（六大學野球リーグ戰試合狀況）
△二、〇〇A 婦人講座（吾等の生命と太陽）工學博士細木松之介（右野球放送なき場合に限り放送す）
△四、〇〇A 角力中繼（夏場所大角力狀況…初日）國技館より中繼（但し野球放送ある場合は變更あるべし）
△六、〇〇（子供の時間）童話（一本の梨の木）高橋恒代
△六、三〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A ニュース 氣象
△七、三〇 九、〇〇A （不良少年問題座談會…出席者順序不同）司會者…東京少年審判所長鈴木賀一郎、東京帝大敎授小野淸一郎 東京社會局主事草間八十雄 警視廳警部不良少年係主任田中信男 少年審判所囑託成田勝郎 東京地方裁判所檢事正夫人宮城たまよ
△九、〇〇A ピアノ獨奏 遠山艷子
△九、三〇A 時報
△九、三一〇 奉天より
△九、四〇A ニュース 氣象

夜間診療
胃腸　梅毒
十二指腸虫病　內科　專門　內科部
淋病　皮膚病　婦人病　專門　外科部
松村胃腸科醫院
（平南町電話一〇七番）

横濱植木株式會社特撰
草花、蔬菜類
優良種子
各種賣出し致しました。
農園藝やく品の御相談は
西村屋藥局
電三番

內科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病
平町田町本通
市原卯太郎
市原陸郎
市原三三男
市原醫院
（入院隨意）
電話一一四番

廣告

前田醫院
院長 前田淸美
植田町電話一二四

藤沼醫院
平町紺屋町電五〇七

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

井坂醫院
平町田町
電話 五五九番

上田醫院
平南町
院長 上田耕作
電話 一二九番

木村醫院
平町六丁目
電話 三〇九番

難波醫院
平町新川端
電話 五〇二番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
㊇ 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院
看護婦募集

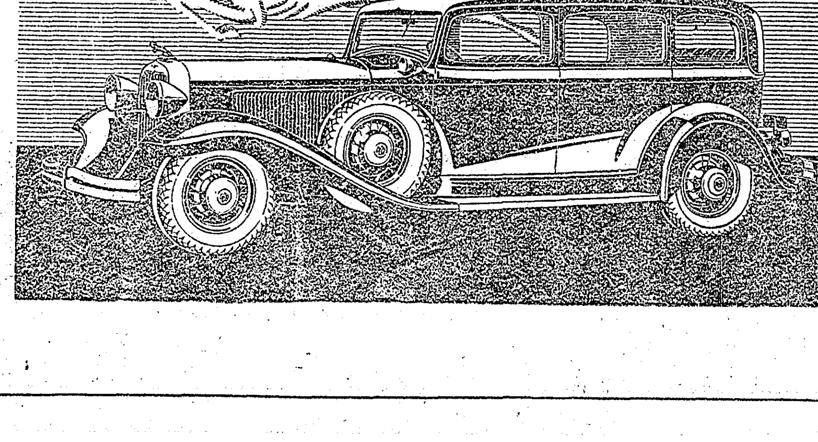
葬祭の造花は美しく
して他の追從を許さざる
勉强振りの
博盛堂へ
店主 松本幸松
平町搔槌小路一番地
電話（呼出）五三五番

耳、鼻、咽喉科
氣管、食道科
專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

吉田眼科病院
平町紺屋町

新車御披露
御國の爲の三勇士 三九二タクシー客の爲獅子吼の勢で眞先に亦も高級車着荷
一九三二年最新型高級車、ダツヂブラザース號ウルトラセダン
最非御愛乘願ます……。
斯界のナンバーワンは
三九二タクシーダツヂ

DODGE



平町一丁目 三九二タクシー
電話 三九二 四四九 番

満洲から

櫻は見るに由なきも 春光は此所にも訪れた

楡の若芽萠いて高梁植付に忙しいさ

砲兵一等銃工長 江尻進君通信

――本隊は遼陽に駐屯待機の姿勢にて有之候處吉長、吉敦沿線の匪賊又々出沒し同線橋梁を破壊する事實に三ヶ所に及び候爲四月二十九日出動、翌三十日吉林に到着大部を二道河子迄出動せしめ鐵道警備中に候（中略）満洲にては櫻は見るに由無きも春光は忘れ無く訪れ廣漠果てなき原野には楡の若芽已に萠え高梁植付けの準備忙しきニーの農夫も澤山働き居る昨今將に戰鬪季には有之候へ共御承知の如くそろそろ満洲名物の一つに數へらるる黄塵萬丈の節に向ひ候爲今後は又之が一と苦勞かと噂致し居り候（後略）

箱崎上等兵村葬 初夏の雨若葉を洗ふ けふ玉川村で執行

玉川村に於ける箱崎上等兵の村葬は初夏の雨若葉に町く今十二日午後一時から同村小學校講堂に於て全村民多數參列の下に神佛兩式によりいとも壯嚴に執行されたが軍隊關係各方面其他各種團体代表者多數の弔詞中鈴木代議士の朗讀せるもの次の如し

弔詞

故陸軍歩兵上等兵箱崎光君の英靈に告ぐ、今次の日支事變に當り建國三千年來の光輝ある歷史を辱しむる事無く我帝國をして九鼎大呂の重きに置かしめたるは、君等忠勇なる將兵が身を鴻毛の輕きに比し帝國生命線の保護に任じたる結果に外ならず而して君は勇往敢爲毅然起つて匪賊を討伐中忽焉として戰線に玉碎し今や屍を馬革に包んで桑梓に歸る、吁悲哉、然りと雖も君國の爲に身命を捧げ永く其名を竹帛に垂るは之れ軍人最大の名譽にして君亦之を本懷とし在天の雄魂永く安らかならん事を、玆に虔みて君の冥福を禪り弔詞となす

昭和七年五月十二日

衆議院議員 鈴木辰三郎

地獄の一丁目迄 石炭が詰つて居る

科學的に調べ上げた 石城炭田の將來

石城炭田は明治十年以降既に六千三百萬噸からの石炭を掘り出してゐるが依然盡きる所を知らず今般同局が調査研究した結果によれば現在の炭量は六億七千八百四十五萬八千九百五十一噸とあるから國内工業が如何に急激な發達をしても確實に大丈夫である、石城炭田の炭層は南北に走り九度乃至十五度の傾斜をもつて東方に向つてゐるから石城附近の海岸下一面が無盡の炭田といふ結論になり途方もなく景氣のいい話である

ここの炭層は一番層から六番層に亘り内郷炭坑から最近、六番層の優秀な部分を發見し目下探索しつつ頻りに發掘中の深度は入山炭坑の地下二千三百尺をレコードとするが現代の科學では地下三千尺程度の發掘しか出來ないといふから一寸悲觀させられる

尚は同炭田の土中深く埋もれてゐる石炭量は

海水準以上九十六萬一千八百七十九噸地下一千尺程度中になると急に增加して一億二千三百八十五萬四千七百八十五噸となり地下二千尺に下れば一億九千百三十五萬三千百八十七噸、さらに地下四千尺になれば三億五千三百六十三萬二千百噸と增加して止まる所を知らぬ様であるからこの附近は地獄の一町目まで石炭が詰つてゐるといふものである

畏くも天杯下賜は 鄕黨の誇りと 町長等發起で

山崎氏の爲祝賀會を開く

既報―石城郡聯合在郷軍人分會長山崎清三氏は勅諭御下賜五十周年記念式典擧行に際し軍事特別功勞者として畏くも天杯を下賜された事につき地方民は鄕黨の榮譽であるとなして伏見町長、赤津副會長、四家石城將校會長、諸橋平商工會長、橋本磐中校長、藤田平分會長、多田井平青年團長等發起となり來十四日午後三時から住吉屋本店で祝賀會を開催する事になつた

東北の中京をめざし 躍進を續ける平町

大事業をどしく計畫する

◇―將來は縣下三市を凌ぐ

水道擴張工事の完成を待つて近郊部落の併合、大公會堂の建設、更に下水道、道路鋪裝と絶けざまに大事業を目論見つつある平町は東北の中京を目指しまさに躍進の途上にあるが最近町當局の調査にかかる町勢を見ると

面積三三五町〇一〇四歩（〇、一二七方里）廣袤東西二五町、南北十九町、戸數四、八〇八 人口二七、七四〇人で道路延長は國道二三町三〇間、縣道一里一二町、町道一五里四町三八間

で平町を中心に頻繁に往來する車馬數は（平署管內）自動車一六八臺（內乘用一、〇二 貨物六六）オートバイ二〇 人力車三〇 自轉車六、二二〇 荷車一、八九〇 荷馬車五二 牛馬車五二八 牛馬一

と謂ふ素晴しい數字を示し町の大玄關たる驛の乘降は

乘人員一〇三四、三七七 降一〇二二、六三〇（六年度で貨物移入二〇三、六九九噸 移出五九、六四五噸）

で地方有數の人事往來を示して居る、尙は附近五ヶ村の人口戶數は左の如くで近郊町村併合實現の曉は一躍

縣下三市を凌ぐ一大都市が現出される譯である

內郷二七、三三三人（五、〇九八）戶 好間一一、六三七（二、二五〇）平窪三、〇八一（四七二）神谷三、四八一（五四五）飯野三、〇一六（四七四）

兵事々務 檢閱 富永少佐來平

平、植田、泉江、原町及小野新町五署管內の兵事々務檢閲は來十四日午前九時から横須賀鎭守府富永少佐により平署會議室で執行する

特定人便乘の外 一般參觀も許されん

軍艦木曾入港日割決定

二等巡洋艦木曾は既報の如く七月二十一日から三日間小名濱港に碇泊二十二日午前七時から平、植田、泉江原町、四署管內六十名は艦長大河內傳七大佐により同上八十名は橫須賀鎭守府花田少佐によつて平署會議室で何れも簡閲點呼を執行する事に決定したが今年も亦軍事思想普及のため一般の參觀も許可されるらしいと

好間附近地質研究

鶴見助教授一行

仙臺東北大學理學部助教授鶴見志津夫氏外學生三名は地質學研究の爲今十二日古河炭礦に至り所長下野博士矢野採炭係長、安孫子庶務係主任の案內で好間村附近を調査した

災害復舊 工事請負決定

十五ヶ所一萬二千六百圓 何れも近々中に着手

平土木監督所管內の第二回災害復舊工事入札は昨十一日午前十一時から同所で執行左の如く決定し近く地元のアブレ勞働者を使用して着工すると

夏井川（神谷村中神谷地內工費三、六〇〇圓外一ヶ所）小玉川（赤井村西小川地內八〇〇）好間川（好間村中好間地內六二〇）藤原川（磐崎村藤原字馬喰坂外六ヶ所、四七九六）鮫川（植田町字御堂七六〇）蛭田川（川部村大字山玉字修路外三ヶ所二、〇三〇）計十五ヶ所一二、六〇六圓

關西の旅から 磐中見學團通信

（第一信）

―（第一日）雨かと危ぶまれた天氣も安心出來るやうになつたのは宵の口だつた。明日の旅に雨に閉ぢ込めらるる憂鬱さを懸念してゐた我等一同もやつと愁眉を開いた、午前四時半驛前へと急ぐ、五時も近づくに連れて三々五々馳けつける友の數が增す、『お早やう』『お早やう』の挨拶も常に異つて朗らかだ。

五時二十分！愈々出發！『さやうなら！さやうなら』『御機嫌よう』の聲が湧き起るかくて我々は前途三千里の關西旅行に旅立つたのだ、ふと氣がつくと校長先生が車內にゐる。聞けば出發の際下車する機會を失つたのだそうだ、我等が敬慕する校長先生は愛弟子の旅立ちに下車を忘れて迄御世話して下さつたのかと思ふと笑ひ得ぬナンセンスだ、列車が綴、湯本、泉と進むにつれて途中乘車の學友を加へ益々賑かになる、トランプを弄ぶ者、朝食を認めるもの

窓外の自然に見惚れる者等々。天に沖する日立の大煙突を見送つて驚て水戸に着く筑波の峯が窓の右に消え去る頃、遙か遠くの空に一台の飛行機が現はれた、進むにつれてその數も增し恰も蜻蛉の様に亂れ飛ぶ、ミルク色の飛行船を交へて、一面の平湖霞ケ浦に照り榮えて或は高く或は低く飛び交ふさまは偉觀だつた。飛行機が見えなくなつた頃輝かしい曠野が窓外に展け遙か東方の空に接するあたり薄墨にヴェールに覆はれてゐた、何か？進むにつれて數知れない煙突と分つた。風船廣告が三つ程我等の目を驚かした。

旅に疲れた我々の頭は東京と云ふ觀念が通過すると忘れてしまふ、言ひ知れぬ感情に打たれて皆無言だ『ウエノ』『ウエノ』どや〱と降車口からホームに立つた我々は始めて東京の土を踏んだのだ何とも形容されぬ興奮、田舍者特有の驚嘆かも知れない、改築されて新裝を凝らした上野驛は眩しいばかりに輝いてゐる、表の明るみに出て始めて、上野廣小路の空氣を吸ふと都會性のためか我々は壓しつぶされさうに感じた

――錯雜した交通網の中を都會人は平氣で泳いで行く直ちに發明博覽會へ向つた會場は不忍池の畔にあつてテレビイジョン（早稻田式濱工式の兩方）その他種々の興味ある陳列品が多かつた。

伏見町長上京

明十三日準急で

平町伏見町長は昨十一日夜準急で上京國道鋪裝工事の實現に奔走する筈であつたが都合に依り今十二日夜準急で鈴木佐藤兩代議士と共に上京最後の猛運動を試みる

新鐵管の 通水試驗

平町上水道擴張工事完成に依る新配水管八幡小路より大工町に至る通水試驗は明十三日午前十時に行ふと

各地情痴ニユース

△昭和泥棒氣質 泥ボー新戰術の見本を一つ、名古屋市東區矢田棚橋政治（三三）は同町七丁目宮田しづ（三〇）方へ夫の不在をねらつて今月四日と九日の深更に忍び入り暴行を加へんとして果さず鍋屋署で家宅侵入、暴行未遂として送局

△東の闇の天國 人問はで嵐も吹かで散る花は深山の奥の山櫻かも、東京三越本店の店員稻垣敏男（二〇）は愛人に先き立たれあまつさへ店を解雇されたのを悲觀して大阪の實兄方に滯留中突然家出し明石驛止り第六四三列車の中でカルモチンを嚥下自殺を企てたが手當の結果あたら死にたい身を再度この世へさらすことになつた

△おゝこの胸を 栃木縣那須郡狩野村字西富山石川國彥（一九）は同村の相馬好方の娘子に懸想し思ひのかなはぬところから同家に放火自分は東北本線に飛び込み自殺を遂げた

△浮世をあとに 戀ゆゑに死ぬ者は日毎に重ねられて行く都の街々は戀の溜息におしつぶされて行く、岐阜縣羽島郡竹ケ鼻川町藝妓置屋あけぼの方抱え妓小鶴事中井久代（一七）及びその情夫大垣共立銀行支店員山田秀雄（二六）は東海道線江州瀨田橋下に抱合つて情死を遂げた

△街頭エロ進軍 パリジヤンは肉を任すとも心を盜まれない要心をと、てもモダンな戀愛戰術ではないか義理と人情に憂鬱な日本人に、初夏は惱ましい、京都市下京區東洞院五條下る奧山義三（二三）は東洞院六條下る福小カフエー女給武藤瞳（一八）を相手に飲酒の上兩人共泥醉して街路に飛び出し抱合つてエロ行進中を七條署員に御用

自殺を決意して 分別男の家出

妻から平署へ搜索願

奈良縣南葛城郡大正村大字楢原山口又次郎（三九）は六日午前十時半頃家出したが東北方面から北海道に渡り自殺する旨を記し七日付東京下谷區局の消印ある遺書を郵送し依然行方不明なので今十二日妻ヨシウから平署へ同人の保護方を願ひ出た

關係町村を 招いて協議

部落併合委員會

平町附近部落併合の町是調査委員會は昨十一日午後一時から町會議事堂で開催井上、武田、鈴木、吉田（寅）千葉、柳下、石山の各委員出席先ず伏見町長より詳細なる說明あり併合に關し各村よりの戶數割等の輕減要求に對しては無條件を以て容認する方針に決し更に十五日午後十時から關係村長の出席を求め懇談的に協議する事となつた

茂庭博士の寄附金で 櫻、松苗數百本植る

平町上水道擴張工事顧問茂庭博士は工事竣功記念の意味で百圓を此程平町へ寄附したので町役場では之を以て櫻、松苗數百本を購入好間村上の原及八幡小路に植樹する事となつた

水道竣功式の 日取り協議

今日午後町役場で

總工費二十六萬四千五百餘圓を投じて昭和五年十月に着工した平町上水道擴張工事は好間村上ノ原の貯水池を始め大瀧地內の流水取入口及び平町八幡小路の配水池並に市內鐵管埋設等全工事は此程愈々竣功の運びを告げ來る六月から給水される事になつたのでこの東北有數の水道擴張工事竣功を記念する式典擧行の爲今十二日午後一時より町役場會議室で關係者が會合し協議

街道に黄金水

神谷の自動車事故

內郷村宮涌井自動車部運轉手荒川彌松（二九）は昨十一日午後五時頃自動車を運轉して浪江町からの歸途神谷村中神谷地內國道で前方から草野村下神谷農坂本房吉（四九）が肥料を滿載して來た荷車に衝突し坂本を路傍の溝に跳ね飛ばし車体は勿論運轉手も被害者何れも黄金水を浴び一時は中々の騷ぎであつたと

墓地荒し檢擧

錦村生れ當時茨城縣多賀郡豐浦町川尻居住日雇業根本末藏（三四）は本年二月四日同町砂澤鈴木定之助方墓地內より霧島さつき一株價格六圓を竊取轉賣した事向細駐在巡査に探知され十日檢擧された

舊惡露見して捕はる

耶麻郡月輪村關戸生れ小名濱町字竹町居住佐藤傳右衛門（三六）は昨年十二月十二日小野新町字八ッ作佐藤富七方に忍び入り洋服金側時計價格百圓を竊取小名濱町に逃げて來た事判明十一日平署員に檢擧された

御子様用 防水マント

御子様方の御通學に是非必要な防水マントを種々取揃へました。

◈ゴム引……0.85より
◈中ゴム……1.3より
◈同（女兒用）…1.40より

通學服も種々取揃へて御座います。

あかや洋服店 平三 電203

親切安全第一を主義と致して居ります
タクシーの御用命は是非尼子タクシーへ
電六四〇番
主任 澤資之（正路改）

耳鼻、咽喉科、氣管、食道科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院（入院隨意）
電話 四八二番

平町慶弔錄

△出生

胡麻澤九四倉町本町一三七武田傳七三女ツタミ

△婚姻

東京府北多摩郡淀橋町角筈一五五伊豆野榮吉（二六）一丁目一九水野爵下（二四）

東京市日本橋區濱町二丁目三三松下松次郎（二三）平町田町七三鈴木ミツ（二三）

埼玉縣秩父郡影森村上影森二八九中鉢吉（二六）平町三丁目二二小磯治由子（二三）

舊四月七日 金曜 甲戌 大安 執 牛宿

五月十三日

鑑判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 足の疲れも次第に加はりて一歩も進み難し▲二黑の人 英氣を養ひて奮鬪に備ふべき日將に難を努む▲三碧の人 何心なく手を附けし事に意外の失敗ある日▲四綠の人 一の矢は外れ二の矢も無駄となるが如き日▲五黄の人 せい意の存する所おのづから信用加はり永く繁榮す▲六白の人 幾なみゐるに似にして熱心努力大望を遂ぐ▲七赤の人 じよう辯は浮薄に流れ他にいやしまる爭論更に注意▲八白の人 手馴れし從來の事業を勵み他にまよはぬが吉▲九紫の人 勢力爭を生ずる事あり分限を堅く守り吉